

ペリー飲んだ

# 保命酒 150年の味わい

子孫もどうぞ



江戸末期に黒船で来航した米国のペリー提督が飲んだ福山市鞆町特産の保命酒が二十一日、約百五十年の時を経て、ペリーの子孫らに振る舞われる。静岡県下田市である「黒船祭」(二十一日)の会場を訪れる子孫の元へ、福山市内の食材販売業者と保命酒蔵元が届ける。

や親類の計二十三人に飲んでもらう。二十一日に下田市内の了仙寺で催されるイベント「応接料理の試食」に、食前酒として出される。

了仙寺に提供を申し出た菓子原料販売、中島商店(福山市御船町)の中島基晴専務(三三)と、蔵元の岡本亀太郎本店(同市鞆町)の岡本良知専務(三三)が、角瓶に入れて下田まで持参する。

同本店によると、江戸期には保命酒は全国的にも有名だったという。岡本専務は「老舗蔵元として継承してきた酒で子孫をもてなせることは大変に光栄。当時のように多くの人に飲んでもらえるきっかけになれば」と

## ▲あす下田訪問 福山の蔵元ら持参

強調。中島専務も「歴史の節目に献上された福山の特産品をあらためてPRする

ることで、福山市の活性化にもつながるのでは」と期待している。

保命酒は江戸初期に誕生し、もち米や薬草十六種類を原料とする鞆町の伝統産品。一八五四年の日米和親条約締結後に開かれた宴席で、老中主座だった福山藩主阿部正弘を通じ、ペリーに出された。

ペリーの子孫に振る舞う保命酒を準備する中島専務(左)と岡本専務